

ありしは新よりの多し家門乃餘慶も人にしす
進をたるとる人

右一冊新内侍基綱卿健筆也平令書寫し

相習共也

永正三年西月十四日

正三位行權中納言藤原朝臣宣秀

洛陽般舟三昧院記

伏見般舟三昧院は後南門院御草創あり元世伏見
福地富室少の橋佐綱之とて居たり長者乃
号とれとせり山形海河の眺望も下量奴の地より
とてとる雷見法寺とて樂代とて寺所なりとて後
菟姑射の離宮別館代に及へり林文正應の西進
号ありとてとる教代大玉れ法所なりとて伏見殿
とて其跡跡とありと結りと院中法花園院は後崇
光院第一の皇子にとてとてと称光院法とてと
わくとて純靜乃志とてとてとてとてとてとてと

院贈相國のまゝ宰相中將のまゝの向ける時
 は伏見殿へいじりおまつり給はるる殿をたあ
 らぬとて帝位をゆゑ給へり漢文皇乃代邸より
 かく後鳥羽院の寶祚とゆはるる御幸とて
 ちゆとてや然則後鳥羽院嵯峨の君より
 後鳥羽院の御幸とて幼年此御時以宮に養ひ
 由りて春乃心秋の月ぞつくり北あつり徹行
 経歴らるゆへに御入小はりや成り先はるる
 洛陽のゆきとていじりてわたりて樂邦の御志を
 へりてまゝとていじりて北嵯峨二尊教院に住る

若空上人

諡号圓慈和尚

四衆無事とてふとていじりて

菩薩大戒とていじりてあつりて安心とていじり
 先くもあつりて安養得生小皈とていじりて
 歡喜嘆未曾有廓然大悟の母とていじりて
 と六八乃悟預とていじりて感とていじりて
 御幸甲子の年書鏡よびりていじりて
 龍顏を控りて書所預光信とていじりて
 形とていじりて先御製とていじりて
 此の院よのことていじりて天照太神乃神鏡を
 とていじりていじりていじりて又百主の供

基をたらし火をまへふをせおゆに唐の玄宗皇
 帝の幸成りて四十八の歳乃めりしと云ふは
 位もや一かゝりしるは世に門を位ふりてな
 後世に法心ふく年六十有餘の室等とてりて後
 りと云ふはこれとてく仙宮と経言く佛國と建立
 の教類ゆゑに任夷大將軍にみことおのゝめ造立不
 日為成せり則般舟之昧院の勅類をりてな
 よの事遺物ありて代之御遺言遺秘けり
 修さるるに支極例るる毎事禁中に模せり
 法令に若准御齋會るる事とてりてな
 かつら者ら出入りし南時よとてりて勅類隨一
 乃糧食とてりてへきとや元小僧見圖の及所御
 記とてりて已

羣書類後卷第四百世

此の巻は、
 諸侯の
 封爵の
 次第を
 記す。



昭和十一年
 内閣文庫

